

総務常任委員会 視察報告（令和6年11月25日～27日）

福島県福島市に向いて、ＪＲ東日本が所有・管理してある福島駅「エコステ」展示施設を視察した。

名称を福島駅ゼロカーボンの森と名付けられ、環境の森として駅の中に広がる森に囲まれ、子どもたちが楽しみながらカーボンニュートラルや脱炭素へ向けた、ＪＲ東日本や福島県の取り組みを理解し、環境について楽しく学び考える場をイメージして、多くの展示物やパネルを展示されていた。

翌日は、宮城県仙台市に向き、市環境局より、製品プラスチック一括回収・リサイクルの取組みについて、レクチャーを受けた。

仙台市は、令和3年3月に議決された、市の環境基本計画において、「杜の恵みを生かした、持続可能なまち」と杜の都環境プランを定められ、世界的にも喫緊の課題である地球温暖化対策やプラスチック資源循環に率先して取り組むことで、人口約110万人の「杜の都・仙台」のブランド向上を図りたいとの考えのもとで、都市像の実現に向け取り組んでいきたいとのコンセプトが感じられた。

今回、視察した製品プラスチック一括回収・リサイクル事業を実施することにより、プラスチックごみの回収量が12%増加し、従前より試験的に取り組まれていた、リサイクルの見える化を目指す中で、資源化されたプラスチック原料から、以前から事業化されていた、プラスチック製物流パレットへの再利用に加えて、その後、再生原料を用いて、プランターや家庭用テッ

シュボックスなどを作ることを開発され、活用することにより、子どもたちへの環境教育にも活用できているとの事であった。

最近では、大手飲料メーカーなどと提携し、オリジナルのタンブラーにもリサイクルプラスチックが活用されているとの事であった。

この他の大きな成果として、プラスチックのリサイクルにより、推計値との事であったが、年間約3万2,000トンの二酸化炭素の削減を達成し、この量は約1万2,000世帯分の年間排出量に相当する成果を出されたとの事であった。現状では事業費が約10%増えているが、今後、市民へのリサイクルの見える化の周知やごみ減量などを更に啓発して行きたいとの事であった。

次に、宮城県松島町で、石田沢防災センターを視察した。東日本大震災の約5年後に整備され、災害発生時には避難所に使う目的であるが、平時には、被災状況や防災・減災への準備・心得などについての常設の展示がされていた。



文教厚生常任委員会 視察報告（令和6年11月25日～27日）

令和6年11月25日～27日の日程で、北海道函館市「はこだてみらい館」はこだてキッズプラザ」を視察し、子育て世代活動支援施設としての整備や運営について研修、北斗市民生部子育て支援課より北斗市の子育て支援政策について研修を受けた。

はこだてみらい館・はこだてキッズプラザは、「函館駅前若松地区第一種市街地再開発事業」として建設された再開発ビルの3階4階に平成28年に開設され、子育て支援や若者の居場所づくりと地域の活性化、にぎわい創出を兼ね備えた施設として「はこだてみらいプロジェクト運営グループ」が指定管理者で運営していた。はこだてみらい館は、先端的な技術を活用した体験や交流の場を提供し中心市街地の賑わいの創出を図ることを目的としており、様々なイベントでデジタルコンテンツやプログラミングワークショップに触れる機会を企画していた。年間利用者数は約6万人で、うち観光客が約7割を占め、修学旅行での利用も多い。はこだてキッズプラザは、遊びを通じて交流する場および子育てを支援する場を提供することにより、中心市街地のにぎわいの創出を図ることを目的としており、観光客に対する一時預かり等も実施していた。また、保育士資格を持つ相談員が相談に応じており、情報提供や助言、関係機関との連携調整を行っていた。年間利用者数は約10万人。

北海道北斗市民生部子育て支援課では、平成28年に子ども・子育て支援課

を新設して子育て支援策を充実してきたが、令和6年に子ども家庭センターを開設し、子育て世帯への包括的な相談体制を構築することにより、全ての妊産婦と子ども・保護者を切れ目なく支援する体制を充実させた。特に相談支援係を新設し、保健師、看護師、社会福祉士、児童福祉士等専門職を配置し、虐待、養育困難、経済困窮、発達相談、ひとり親、多文化共生等気軽に相談できるよう相談体制の充実を図った。また、多様化する子育て環境に対応する情報提供手段として、行政サービスをデジタル化し、利用者にとってより便利なサポートを提供するためにアプリ「母子モ」を導入した。このアプリ導入により妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援、家族間での情報共有、地域特性に合わせた情報の提供等が促進された。令和7年度に子ども家庭センターを立ち上げる小城市にとって参考になった。



産業建設常任委員会 視察報告 (令和6年11月25日～27日)

奥州市伝統産業会館を視察した。

地元の伝統工芸である南部鉄器発祥の地の歴史を伝える名品の数々が展示しており、鉄器づくりの工程の紹介がされていた。工芸品ブーム、観光ブームにより、伝統的な鉄瓶などが見直され、伝統産業を守ることの大切さを再確認させられた。

次に、盛岡中央公園を視察した。

2019年春、市が整備事業者を公募し、Park-PFIの制度創設時に都市公園に設置可能となった保育園の建設とともに、広場の整備、収益施設の設置、それらの運営、維持管理を委ねられている公園であった。民間による広場整備と維持管理になるため行政から見れば負担は減り、コスト削減努力も期待できる。学びを軸に公園を子どもの居場所というコンセプトに基づき作られている。

さらに岩手県紫波町の「オガール」の視察をした。

紫波町中央駅前のエリアを出発点とし、紫波町が持続的に成長していく願いを込めてつけられた名称である。オガールプロ

ジェクト構想においてリーダーの存在が大きかった。

民間の力で行う事を前提とした計画に基づき、民間会社を立ち上げ、そこが中心となり、計画、設計、地元業者への工事発注、その後の運営など、公的ではなく民間に任せた運営がなされた事が成功につながっている。人口3万2000人ほどの町でこの施設に30万人が利用する施設を目指す。



▲岩手県紫波町の複合施設「オガール」

正副委員長会 陳情・要望活動

(期間) 令和7年2月28日
(陳情・要望活動)
九州地方整備局

2月28日に、江里口市長・執行部の同行のもと、国土交通省・九州地方整備局を訪問し、江里口市長の退任の報告、及び今後の牛津川遊水地事業の要望活動を行った。

要望内容の項目は、激特事業後の期限後も継続した予算配分と集団移転先整備事業への協力、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の昨年度以上の予算確保と、その後の国土強靱化実施中期計画の策定と予算確保、地方整備局等の体制の充実・強化と資機材の更なる確保などである。



議会広報編集特別委員会 視察報告

(期間) 令和7年1月30日～31日
(目的及び視察地)
議会広報誌の編集・発行について
佐賀県鳥栖市議会
広島県福山市議会

鳥栖市議会の広報誌は、中学生が読んでも理解できるように文章を書くことを心掛けられており、また、「市民が知りたいことは何か」を強く意識されていた。

また、福山市議会の広報誌は、全ページがフルカラーになっており、色の判別が難しい方に配慮した色づかいを心がけておられた。また、広報誌に対する、市民からの意見を求める取り組みも始めている。



▶鳥栖市議会



▶福山市議会